

文学部A方式 I 日程・経営学部A方式 I 日程・人間環境学部A方式

3 限 選 択 科 目 (60 分)

科 目	ペー ジ	科 目	ペー ジ	科 目	ペー ジ
政治・経済	2～21	日 本 史	22～35	世 界 史	36～50
地 理	52～61	数 学	62～67		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. 数学については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
5. マークシート解答方法については、以下の注意事項を読みなさい。

マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

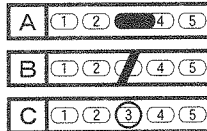
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

(世界史)

〔I〕 つぎの文を読み、下記の問いに答えよ。

発達した資本主義の工業力と国民動員体制が求められた第一次世界大戦は、それまでの戦争とは異なる総力戦の性格を持った。第一次世界大戦のさなかに起こったロシア二月革命(三月革命)は、ロシア帝国がこうした総力戦に堪えられなかったために起こったと言える。また歴史には断絶と連続があるとされる。それまでの体制すべてが革命で変わるわけではないということである。十月革命(十一月革命)と干渉戦争、内戦を経て成立するソヴィエト社会主義共和国連邦(ソ連)にもロシア帝国からの連続面を見て取ることができる。

まず農業を含む経済面である。第一次世界大戦下のロシア帝国では都市の食糧不足状況が強まり、ペトログラードの混乱と二月革命を招来した。そしてこの状況は、自由主義政党の⁽¹⁾ 、ナロードニキ系の、マルクス主義系のが加わった臨時政府にも引き継がれた。しかし、臨時政府はこの課題に対応できず、十月革命が起こった。ナロードニキ系の政治家として臨時政府に入閣し、のちに首相となっていたは、その後亡命した。こうしてマルクス主義系の別組織であるを中心とする社会主義政権が誕生した。その後単独政権となった政府は、1918年初夏から穀物の強制徴発に着手する。と呼ばれるこの政策は、農村を敵に回し、諸国の干渉戦争ととも⁽²⁾に3年に及ぶ内戦を招来する原因の一つとなった。内戦は多くのロシア人難民を生み出した。内戦終結後、当時の最高指導者は政策を転換し、部分的に市場経済を認めるをとった。しかし、1920年代後半には五カ年計画が採用され、農民は旧農村を基盤に共同経営を行うに強制的に組織され、国家管理下に置かれた。ここでめざされたのは農産物の安定供給と政権による農民層の掌握であった。農民は、革命以前と変わらない社会状態におかれたのである。⁽³⁾

つぎに国家領域という点で考えてみよう。ロシア帝国は多数の民族をその領域にかかえる多民族国家で、統治は帝国周辺地域に辺境を置くことで成り立ってき

た。ロシア二月革命は、この辺境地域に大きな動揺を生み、帝国は解体に瀕した。革命後の内戦は、旧領域の解体・再編過程でもあり、内戦が終わりに近づくときと社会主義政権は、次々と諸国と国境画定を行った。1917～18年に独立を宣言したエストニア、リトアニア、ラトヴィア、フィンランドとの国境は1920年に画定され、翌21年にはアフガニスタン、⁽⁴⁾オスマン＝トルコ、イラン、⁽⁵⁾ポーランドと国境を画定した。これを受けて1922年12月に連邦条約を締結してソ連が結成されることとなる(中央アジア諸国は後に加盟)。民族問題人民委員としてこれに中心的に関わり、後に農業集団化を進めた は、敵国に包囲される中では旧体制の経済的結び付きを復活させねば国家は存続できないと、ソ連結成を理由付けた。ある歴史家は、勝利して政権を握った革命運動は対外政策の面で旧体制との連続性を最も強く表すと述べたが、旧ロシア帝国とほぼ重なる領域を領土としたソ連は、改めて帝国国家の性格を獲得したと言うこともできよう。成立したソ連は、⁽⁶⁾諸国から国家承認を得た。しかし、この後ソ連は、⁽⁷⁾ポーランドの東半分をドイツとの秘密協定で占領し、ベッサラビアを併合し、⁽⁸⁾バルト3国を連邦加盟の形で獲得して、⁽⁹⁾ロシア帝国の領土の多くを回復するのである。

問1 文章の空欄に入る最も適切な語句を、空欄 ～ ，
 ～ については語群Aから、空欄 および
 については語群Cからそれぞれ一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。解答方法は以下同じ。

問2 下線部(1)について以下の問いに答えよ。

- ① ペトログラードは、バルト海のフィン湾沿岸に建設された都市である。
この建設を命じた人物を語群Cから選べ。
- ② 建設の始まった時の都市名を語群Bから選べ。

世界史

問3 下線部(2)について以下の問いに答えよ。

- ① 干渉戦争は、ロシアの戦争離脱を防ぎ、東部戦線を維持する目的を持っていた。干渉戦争の一因となった、ロシアがドイツと結んだ講和条約名を語群Bから選べ。
- ② ロシア側の責任者として対独交渉にあたったのは、十月革命の軍事行動を指導した人物でもあった。この人物は、後にライヴァルとの権力闘争に敗れ、国外追放となる。これは誰か。語群Cから選べ。
- ③ 英仏は、第一次世界大戦開戦後に単独講和を締結しない旨の秘密協定を締結し、さらにその後、戦後のオスマン＝トルコ帝国領の分割についても合意していた。オスマン＝トルコ領の分割について定めた協定名を語群Cから選べ。
- ④ 干渉戦争時のイギリスの指導者(首相)を語群Cから選べ。
- ⑤ アメリカは、ロシアに投降したのち1918年5月に反乱を起こしたチェコ軍団を救済するとして、シベリアに軍を送った。この当時のアメリカ大統領は誰か。語群Cから選べ。

問4 下線部(3)について以下の問いに答えよ。

- ① 帝政期にロシアは、外債発行で資金を調達して工業化を図り、このために穀物がヨーロッパに輸出された。穀物法を廃止して、19世紀後半にロシアの最大の小麦輸出先となった国はどこか。語群Bから選べ。
- ② 1890年代に蔵相としてロシア帝国の工業化に大いに貢献した人物は誰か。語群Cから選べ。

問5 下線部(4)について以下の問いに答えよ。

- ① 1918年10月に連合国に降伏したオスマン=トルコ帝国では、トルコ革命が起り、当初連合国と締結した講和条約が破棄された。この破棄された条約名を語群Bから選べ。
- ② 条約を破棄した時期の指導者を語群Cから選べ。
- ③ 改めて締結された講和条約名を語群Bから選べ。
- ④ 新たな講和条約によりトルコは、ギリシャ勢力から奪還していたエーゲ海に面した都市の領有を確認した。この都市名を語群Bから選べ。

問6 下線部(5)について以下の問いに答えよ。

ロシア帝国から独立したポーランドは、かつて領有した地域を獲得しようとソヴィエト政権と開戦した。この時のポーランドの指導者を語群Cから選べ。

問7 下線部(6)について以下の問いに答えよ。

- ① 諸国は成立したソヴィエト政権との経済関係形成をめざして関係を修復する。最初に関係修復を図った国はどこか。語群Bから選べ。
- ② ソヴィエト政権がドイツと締結した条約名を語群Bから選べ。
- ③ 主要国の中でソヴィエト政権を最後に承認した国家はどこか。語群Bから選べ。
- ④ ③の承認を決断した指導者は誰か。語群Cから選べ。

問8 下線部(7)について以下の問いに答えよ。

両国がポーランド分割を実行したのは何年か。つぎの(ア)~(カ)から選べ。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| (ア) 1937 | (イ) 1938 | (ウ) 1939 |
| (エ) 1940 | (オ) 1941 | (カ) 1942 |

世界史

問9 下線部(8)について以下の問いに答えよ。

バルト3国の正式な併合は何年の出来事か。つぎの(ア)~(カ)から選べ。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| (ア) 1936 | (イ) 1938 | (ウ) 1939 |
| (エ) 1940 | (オ) 1941 | (カ) 1945 |

問10 下線部(9)について以下の問いに答えよ。

本文にあるように、ソ連は旧ロシア帝国の領土の多くを回復したものの、領土割譲を要求して起こしたある国との戦争では勝利できず、この戦争を理由に国際連盟から除名された。ソ連と戦ったこの国を語群Bから選べ。

〔語群A〕

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1 右翼党 | 2 オクチャブリスト | 3 共産主義 |
| 4 君主党 | 5 国民党 | 6 国家介入策 |
| 7 国家主義 | 8 コルホーズ | 9 資本主義 |
| 10 社会革命党 | 11 社会主義 | 12 自由化政策 |
| 13 新経済政策 | 14 新自由主義 | 15 人民党 |
| 16 戦時共産主義 | 17 ソフホーズ | 18 ボリシェヴィキ |
| 19 メンシェヴィキ | 20 立憲民主党 | |

〔語群B〕

(「条約」「国」といった語は省略してある。同じ語を複数回使用してよい。)

- | | | |
|------------|---------------|-----------|
| 1 アメリカ | 2 アルメニア | 3 イギリス |
| 4 イズミル | 5 イタリア | 6 グルジア |
| 7 サン=ジェルマン | 8 セーヴル | 9 トリアノン |
| 10 ヌイイ | 11 ノルウェー | 12 フィンランド |
| 13 フランス | 14 プレスト=リトフスク | |
| 15 ペテルブルグ | 16 ベルギー | 17 ポーランド |
| 18 ラパロ | 19 ローザンヌ | 20 ロカルノ |

[語群C](同じ語を複数回使用してよい。)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 ヴィツテ | 2 ウイルソン |
| 3 エカチェリーナ2世 | 4 グレイ |
| 5 ケレンスキー | 6 サイクス・ピコ |
| 7 スターリン | 8 セオドア＝ローズヴェルト |
| 9 チェンバレン | 10 トロツキー |
| 11 ピウスツキ | 12 ピョートル1世 |
| 13 ヒンデンブルク | 14 フーヴァー |
| 15 フランクリン＝ローズヴェルト | 16 マクドナルド |
| 17 マルトフ | 18 ムスタファ＝ケマル |
| 19 レーニン | 20 ロイド＝ジョージ |

世界史

〔Ⅱ〕 つぎの文を読み、下記の問いに答えよ。

1994年、中国山東省の曲阜市にある孔廟は、ユネスコの世界文化遺産に登録された。孔廟は儒家の祖である孔子の神霊を祀る廟所である。孔子は、礼にもとづく自己抑制と他人への親愛の情である を基本理念にすえ、周代を理想として「修身・齐家・治国・平天下」の道を説いた。孔子の説を奉じ性善説を唱えた や性悪説を唱えた荀子らの学派は儒家と称され、前漢中期には儒家の学問である儒学は官学となり、皇帝が営む専制国家をささえる正統な学問となった。そのため、中国歴代の皇帝たちは孔廟に詣でるとともに、孔廟の増築や補修を重ねてきたことから、孔廟は壮大かつ荘嚴な建築群へと変貌をとげ、大成殿と称する正殿は中国三大宮殿建築の一つとなっている。曲阜は魯の都が置かれたところである。魯は周の初代武王の弟で周の基礎を固めた周公旦⁽¹⁾を祖とする諸侯国で、春秋時代にあつて周の文化・制度を伝えた国として知られている。孔子は魯に生まれ、魯の国政改革を試みるが失敗、諸国を遊説した後に再び魯に戻り、弟子の教育に専念しこの地に没した。孔廟の北側にある孔林は、孔子とその一族の墓地であり、孔廟とともに世界文化遺産に登録されている。

孔子が理想とした周とは、前11世紀ごろ殷を滅ぼして建てられた王朝で、現在の陝西省西安市付近に都を定めた。この都を鎬京、あるいは宗周という。暴政によって民意を失った殷の紂王を、天の命を受けた武王が討ち滅ぼしたとされるが、この王朝交替を説明する政治理論を という。

周王は一族や功臣に という領地を与えて諸侯とし、土地と農民を世襲的に支配させた。諸侯は周王の祖先祭祀に参加し、周王に貢納と軍役を提供する義務を負うが、諸侯らも同様に卿・ ・士と称される世襲の家臣団に領地を与え忠誠の義務を課した。周で施行されたこの統治体制を封建制度というが、周の主従関係は血縁を中心とする氏族的な関係であった。周は東方における殷の旧地を管理するため洛邑(成周とも称する。現在の河南省洛陽市)をも建設し、封建制度によって、黄河流域から長江に達する広大な領土を支配した。周は封建制の支配階級の基盤として宗族を組織しており、それを維持する規範として を定めていた。宗族とは同姓の父系集団であり、大宗(本家)と小宗(分

家)の区別があり、大宗を頂点にまとめ、祖先の祭祀をおこなった。小宗はしだいに拡大するため、分裂する傾向をもっていた。このため、封建制度は施行後まもなく弛緩しはじめ、前9世紀には諸侯の反乱が起り、西方や北方の隣接民族の侵入が活発になった。前8世紀に入るとついに遊牧民の犬戎によって鎬京は破壊され、東の洛邑に遷都することになる。この周の東遷から前5世紀末に晋が韓・魏・の3国に分裂するまでを春秋時代、それ以降にあって秦が中国を統一するまでを戦国時代という。⁽²⁾

封建制度の解体は進んだものの周王室が名目的ながら権威を保っていた春秋時代には、のスローガンを掲げ諸侯間の同盟(会盟という)を指導した有力諸侯が登場した。彼らのことをと称する。晋の文公やの桓公はその代表であるが、長江下流南側の地域にも「臥薪嘗胆」の故事を生んだ呉のと越のが登場した。

春秋の末から戦国にかけては、各国が互いに王を称して抗争を続け、富国強兵策が推進されるなかで、鉄製農具の使用との普及により農業生産力が高まるとともに、商業取引が盛んになり、青銅で鑄造された貨幣も出現した。⁽³⁾

戦国時代、有力諸侯は中央集権化を進め、弱小の諸侯国を併呑し、周王室の権威は完全に失われた。戦国時代に有力となった七国を七雄と称するが、その中で西方の秦がしだいに台頭してくると、東方の六国が同盟して秦にあたる合従策と、秦が六国のおのおのと単独に同盟する連衡策が二大外交政策として現れた。この二策が入り乱れて東方の各国の方針が一定せず、最終的に六国は秦に併呑されることになる。七雄の一つにあげられ長江中流域を中心に強大を誇った楚⁽⁵⁾も、連衡策を説くらの策謀に翻弄され秦と戦って大敗し、領土の西方を放棄し東に活路を求めることになる。孔子が活躍した魯は、前249年、この情勢の中で楚によって滅ぼされるが、その後、楚も国勢が弱まり、前223年秦によって滅ぼされた。

世界史

問1 文中の空欄 ～ に入る最も適切な語句を、下記の語群からそれぞれ一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

[語群]

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1 遊牧 | 2 専売 | 3 牛耕 | 4 朝貢 | 5 大夫 |
| 6 王道 | 7 神権 | 8 華夷 | 9 宗法 | 10 封土 |
| 11 井田 | 12 豪族 | 13 邑制 | 14 変法 | 15 覇者 |
| 16 宦官 | 17 伯 | 18 信 | 19 仁 | 20 義 |

問2 文中の空欄 ～ に入る最も適切な語句を、下記の語群からそれぞれ一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

[語群]

- | | | | | |
|-------|-------|------|------|--------|
| 1 呉子 | 2 孟子 | 3 莊子 | 4 勾踐 | 5 韓非 |
| 6 蘇秦 | 7 商鞅 | 8 夫差 | 9 張儀 | 10 公孫竜 |
| 11 穆公 | 12 襄公 | 13 陳 | 14 齊 | 15 蜀 |
| 16 趙 | 17 梁 | 18 宋 | | |

問3 下線部(1)に関して、孔子と同じく魯に生まれた墨子は、戦争を否定したが、この墨子が唱えた説を何というか。漢字2字で解答欄に記入せよ。

問4 文中の空欄 には、有識者が天命を受けて新たな時代の天子になるという、孟子などが唱えた中国における王朝交替の理論が入る。この政治理論を漢字4字で解答欄に記入せよ。

問5 下線部(2)に関して、晋が三国に分裂してから燕が滅亡するまでの各国の歴史や遊説の士の策などを、国別に編集したものを何というか。漢字3字で解答欄に記入せよ。

問6 文中の空欄 には、周王を尊敬し異民族の侵入を討ち払うべきであるとする春秋時代の有力諸侯のスローガンが入る。このスローガンを漢字4字で解答欄に記入せよ。

問7 下線部(3)に関して、農具の形を模したもので、主に晋の領域であった山西・河南などで使われた青銅銭を何というか。漢字2字で解答欄に記入せよ。

問8 下線部(4)に関して、時勢を読み、策略をもって人や国を動かそうとする遊説の士で、各国の君主に外交を説いた学派を何というか。漢字3字で解答欄に記入せよ。

問9 下線部(5)に関して、楚の王族の出身で、楚の内政・外交に活躍したが失脚し、祖国の滅亡を憂えた詩を残して入水自殺した人物は誰か。漢字2字で解答欄に記入せよ。

世界史

〔Ⅲ〕 つぎの文を読み、下記の問いに答えよ。

2013年2月28日、ローマ教皇ベネディクト16世が辞任し、翌3月に新教皇フランシスコが就任した。ベネディクト16世が辞任を決意した一因は、カトリック教会の種々の不祥事であったと思われ、史上初のアメリカ大陸出身、かつイエズス会出身のローマ教皇であるフランシスコには、カトリック教会改革への期待が寄せられている。ここでカトリック教会の歴史を振り返ってみよう。

ローマ帝国支配下のユダヤに成立したキリスト教は、時に迫害を受けながらもローマ社会に徐々に浸透していき、313年ローマ皇帝により公認されるに至った。その皇帝はさらに、「普遍的(カトリコス)」教会に遺産受贈権を含む諸特権を認めるなど、さまざまなキリスト教保護政策を打ち出した。以後、キリスト教会から「背教者」と呼ばれることになる 帝や若干の篡奪帝を除いて、ローマ皇帝位はキリスト教徒が占めることとなる。だが、キリスト教内部には早くから、父なる神と子たるイエス＝キリストの関係などをめぐって多様な考え方があり、世俗権力との結びつきは、「カトリコス(カトリックの語源)」教会の教義をめぐる対立を尖鋭化させた。 帝は380年の勅令で、 がニケーア公会議で主張した説を発展させた三位一体説を信奉する者がカトリック＝キリスト教徒の名に値するとし、みずからの統治下にある万民がカトリック＝キリスト教を信奉すべきことを命じた。その後、キリスト論をめぐる対立が激しくなり、451年のカルケドン公会議で採択された信条が正統教義とされた。この信条の基礎⁽¹⁾になったのは、イタリアに侵入したフン王 を説得して退却させたことでも知られるローマ司教レオ1世の教書であった。この教書では使徒ペテロを継承するローマ教会の首位権も主張されたが、ローマ司教が「教皇(パパ)」と呼ばれるようになるのは、この頃からである。6世紀末に教皇となり、ゲルマン諸族への布教などの功績で大教皇と呼ばれる も、ローマ教会の首位権を強く主張した。ローマ教会もコンスタンティノーブル教会もカルケドン信条を教義の根幹としていたが、そのような首位権の主張や他の問題⁽³⁾で対立を深めて東西教会の相互破門による分裂⁽⁴⁾に至り、今日「カトリック教会」と言えば、東方正教会と区別され、ローマ教皇を最高指導者とするローマ＝カトリック教会を指す。

東西教会は聖職者の独身義務をめぐっても反目した。ベネディクト16世を悩ませたカトリック教会の不幸事の一つには、この聖職者の独身制も関係していると思われる。この問題の起源は古く、305年頃スペイン南部で開かれた教会会議では、聖職叙階後の夫婦関係の継続に罰則が規定されている。これには3世紀のキリスト教会で、殉教者に次いで性的禁欲の実践者を崇敬する傾向が強まっていたことが関連している。3世紀末にはエジプトの砂漠で極端な禁欲生活を実践する修道僧が現われ、やがて共住型の修道院も開かれた。西方では6世紀前半に 6 がローマ南方のモンテ=カッシーノに、「清貧・服従・貞潔」を基本理念とする厳格な戒律をもつ修道院を創立した。だが、教会聖職者の独身義務はなかなか定着しなかった。他方、公認後に遺産受贈権を認められたこともあり、キリスト教会は富と力を蓄積していく。とりわけ756年にピピンが寄進したラヴェンナやウルビーノなどの土地は、ローマ教皇を財政的に支える教皇領の起源となった。だが、王侯貴族による教会や修道院の建立や土地の寄進は、それらを自分の所有物とみなし、聖職者に対しても任免権を含めた諸権利を行使できると考える「私有教会」の理念を生み出し、教会や修道院の世俗化を招くことにもなった。

9世紀末からの100年ほどは、聖職者の結婚や聖職売買などの悪習が教皇座にも及ぶほど蔓延し、カトリック史上の「暗黒時代」とも言われる。そのような状況下で910年に創設された 7 修道院は 6 戒律への復帰を主張し、王権や教皇の保護を受けて教会改革運動の先陣を切った。その流れを受けてローマ教皇となったグレゴリウス7世は1074年、聖職者の妻帯に反対する前任者たちの教令をさらに強化して発布した。翌1075年には俗人による聖職叙任を聖職売買として禁じたが、これは神聖ローマ皇帝 8 との間の叙任権闘争に発展した。叙任権闘争は1122年のヴォルムス協約で終息し、ローマ教皇権はインノケンティウス3世(在位1198~1216年)の時代に絶頂期を迎える。その過程で、聖職者の独身制も教会法により明確化された。一方で13世紀には、使徒的生活を理想として清貧を説く托鉢修道会も出現した。現教皇の名前の由来であるフランチェスコ修道会もその一つだが、この托鉢修道会の出現もまた、当時の教会や修道院のありように対する批判であったと言えよう。

言うまでもなく、カトリック教会に対する最大の改革運動は1517年にルターが

世界史

始めた宗教改革であり、これはプロテスタント諸派の成立とカトリック教会からの離脱に帰着した。これに対しカトリック教会の側でも1534年に創設されたイエズス会を中心に改革を進め、イエズス会はまた中南米やインド・中国などへの布教も積極的に進めた。⁽⁸⁾そして2013年、アルゼンチン出身の教皇が誕生したのであった。

問1 文中の空欄 ～ に入る最も適切な人名・地名を解答欄に記入せよ。

問2 下線部(1)のカルケドン公会議の説明として正しいものを、つぎの a～d の中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。解答方法は以下同じ。

- a 聖母マリアに対する「テオトコス(神の母)」という尊称を否定したコンスタンティノーブル総主教ネストリウスを、異端として追放した。
- b 受肉後のキリストにおいては、人性は神性に吸収され、単一の性しかないとするキリスト単性論の信条を採択した。
- c キリストは人性・神性の両性において完全とするキリスト両性論の信条を採択した。
- d この公会議で採択された信条は、シリア教会やエジプトのコプト教会から強く支持されることになった。

問3 下線部(2)について、フン族はこの前にフランス北東部に侵攻したが、西ローマとゲルマン諸族の連合軍との戦いに敗れて退却した。この戦いはつぎの a～d のうちのどれか。

- a カタラウヌムの戦い
- b クレシーの戦い
- c トゥール＝ボワティエの戦い
- d レヒフェルトの戦い

問4 下線部(3)の「他の問題」には、聖像崇拜論争が含まれる。この聖像崇拜論争の説明として正しいものを、つぎのa～dの中から一つ選べ。

- a 東ローマ(ビザンツ)皇帝レオ3世が787年に出した聖像禁止令が、この論争を引き起こした。
- b ローマ教皇レオ3世が787年に出した聖像禁止令が、この論争を引き起こした。
- c 当時のビザンツ社会ではキリストや聖母を描いたイコン崇拜が盛んであったが、ビザンツ皇帝は偶像崇拜を厳しく禁じるイスラームに影響されて、聖像禁止令を出した。
- d 当時のローマ教会はゲルマン布教に聖像を利用していたが、偶像崇拜を厳しく禁じるイスラームに影響されて、聖像崇拜を抑圧しようとした。

問5 下線部(4)について、これはいつ頃の出来事か。つぎのa～dの中から一つ選べ。

- a 9世紀末 b 10世紀半ば c 10世紀末 d 11世紀半ば

問6 下線部(5)のピピンの寄進の背景の説明として誤っているものを、つぎのa～dの中から一つ選べ。

- a ピピンの父カール=マルテルは、宮宰としてメロヴィング朝フランク王国の実権を握っていた。
- b ピピンはフランク王として初めてローマ=カトリックに改宗し、教皇への忠誠の証として、この寄進を行った。
- c ピピンはローマ教皇の了解のもと、メロヴィング朝の王を廃してカロリング朝を創建し、そのことがこの寄進の背景にあった。
- d ピピンはローマ教皇の求めに応じてランゴバルド王国に遠征し、奪った土地を教皇に寄進した。

世界史

問7 下線部(6)のヴォルムス協約の説明として正しいものを、つぎの a～d の中から一つ選べ。

- a この協約はグレゴリウス7世が、自分が争って破門した神聖ローマ皇帝の死後、その息子との間に結んだ。
- b この協約は、司教と修道院長の叙任権は教皇が有するものの、大司教の叙任権だけは神聖ローマ皇帝に残すという、妥協的な内容であった。
- c この協約は、聖職叙任権は教皇が持つが、諸侯としての聖職者に俗権を授ける権利は皇帝が保持するという、妥協的な内容であった。
- d この協約は、聖職叙任権も教会領・修道院領への上級領主権も教皇のものとする、教皇側の完全な勝利と言える内容であった。

問8 下線部(7)のルターについて述べた文章として誤っているものを、つぎの a～d の中から一つ選べ。

- a ローマ教皇はサン＝ピエトロ大聖堂改築のためドイツでさかんに贖宥状を販売していたが、ルターはこれを批判した。
- b ルターが完成させたドイツ語訳聖書のおかげで、一般信徒も聖書を通読できるようになった。
- c ルターは『キリスト者の自由』を著し、信仰義認説を主張した。
- d ルターはドイツ農民戦争では社会変革を求める農民層を支持して、領主層と農民層の和解に努めた。

問9 下線部(8)に関連して、イエズス会の宣教師ではない人物を、つぎの a～d の中から一人選べ。

- a アダム＝シャルル
- b フェルビースト
- c マテオ＝リッチ
- d ラス＝カサス

(白 紙)